

明日への扉

No.1

夢に向かって

何事にも諦めず！



Daisaku Hidaka

日高大作さん

昭和63年大始良中学校卒業、平成3年鹿屋高校卒業。平成8年防衛大学校卒業後、航空自衛隊に入隊。平成25年3月に宮城県松島基地に所在する第11飛行隊（ブルー・インパルス）に配属。平成26年8月から飛行隊長として勤務。（42歳）

私は幼い頃、鹿屋基地の航空機が飛んでいるのを目にしても、特に興味はありませんでした。それは運動が得意ではなく、自衛隊に耐え得る自信がなかったため、目を逸らしていたのだと思います。しかし、腕試しで受けた防衛大学校に合格。父親の強い勧めや、親友の「お前には無理」と言われたことに奮起し、「防衛大学校を卒業して、必ずパイロットになってやる！」と決意したことが動機でした。

防衛大学校の入校当初は、慣れない自衛隊の生活に苦労しましたが、同じ目標に向かって苦楽を共にし、お互いに支え合える仲間がいたため、きつい訓練でも乗り越えられたと思います。

我々ブルー・インパルスの隊員は、年間約25回の展示飛行を実施するため、北海道から沖縄までの大空を飛び回っており、展示シーン中は多くの週末を全国各地で過ごしています。

パイロットになって故郷の空を飛びたいと思っていました。ブルー・インパルスのパイロットとして、3年しかない任期中にエアームモリアルin鹿屋に参加できた自分の強運に驚いています。特に、ゲートの外や街中に掲げられた鹿屋出身

3名のための横断幕に感激し、多くの方に感謝の気持ちをお返しするつもりで精一杯の展示飛行に努めました。

自衛隊のパイロットは国を守るという任務のため、民間航空よりも、厳しく過酷な訓練を強いられます。しかし、厳しいからこそ、それを乗り越えられた時の喜び、充実感はとても大きなものです。目標に向かい、困難に直面しても、立ち向かう強い気持ちが大切だと思います。私も「絶対にパイロットになる」という強い気持ちで何事にも取り組んできたため、今では大空を自由に飛ぶことができているのだと思います。夢に向かって、何事にも諦めず頑張ってください。

私の飛行隊長としての任期は後1年3か月となりましたが、これまで多くの方から賜ったご支援に報いるため、日々飛行訓練を安全かつ一生懸命に励み、世界に誇れる飛行技術を磨いていきたいです。そして、全国各地の多くの方に「夢」、「希望」、「感動」そして「笑顔」をお届けできるようダイナミックなアクロバット飛行をお届けできるよう隊員一丸となって頑張りたいと思います。

これからもブルー・インパルスをよろしく願っています。



常に危険を伴うため、緊張感を持ちながらの飛行ですが、眼下に広がる富士山や紅葉した山々、朝日や夕日に染まる雲海、暗夜の中で瞬く満天の星空などを見られることは自分へのご褒美とのこと。